２０２３年度　まめどくれっしゅ　事業報告書
（保育所における自己評価）

1．２０２３年度の概要　～年度の基本方針を受けて～

私たちは、法人の理念「にんげん力。育てます」を鑑み、主体的・対話的な深い学びを目指し、子どもが今日、経験したことを他者と関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合い、協力して自らの考えを広げ、深めていくことを目指し、子どもが保育者や友だちと関わりながら“Trial&Error”を繰り返し、さまざまな体験を通じて学びを深めたり発展したりできるようにしてきました。そして、子どもが自分で選んで、自分で決めて、自分の生活を営み、人と共感することが好きな子どもを育んできました。

また、どろんこ会が目指す園の姿を柱に保育内容の充実や保育の質の向上に努めました。

どろんこ会グループが目指す園の姿のポイント

1. 原点回帰：どろんこ会グループの日課・基本活動へのこだわり
2. 基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩９時 出発・鶏の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育の意味を深めながら実践する。形がパーフェクトであることより、各園が課題をみつけ、常によりよくするために学び・努力するプロセスを大事にする。
3. 他者との協働の中で互いに思いや考えを共有し、共通の目的を実現する活動実践
異年齢の関わりの中で直接体験を通じて、以下3つの要素が求められる環境構成をし、見守る
①他者との協働 ②感情コントロール ③目標の達成
4. 食材・食の循環を認知する直接体験
5. 子どもの姿を捉えた保育計画・アプローチカリキュラム作成
6. 自園の強み・特徴を生かした園や子どもの姿の記録と公開
7. 保護者の心に入り込んだ接遇 保護者がいつ見ても気持ちが良い施設
8. 大人のにんげん力 UP
9. 全スタッフが目標設定をおこなう。
10. コンピテンシーの追求
11. 選ばれる園をつくる（地域になくてはならない保育園）
スタッフがやりがいを持ち、働きやすく、保護者・地域・自治体の方から愛される園作り

保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「生きる力」の基礎：「にんげん力」を育む どろんこ会グループの日課、基本活動の日課、基本活動の充実と質の向上
	実践結果	異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・戸外活動・生き物の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・地域異世代交流の意味を深めながら、保育者は、園内研修を通してこれらの活動における課題を見つけ、常によりよくするため研鑽に努めてきた。

	次年度方向性	日課、基本活動を通しての子どもひとりひとりの成長を追っていく。 前年度の園内研修を生かし、更に大人がどうかかわっていくべきかをスタッフ間で話し合い、共通理解を深めていく。
2	計画・ねらい	子ども主体の保育を確立させる/子ども自身が考える力を身につける
	実践結果	保育者は子どもの行動を一歩下がって見守ることを意識した。子どもの興味を探り、興味に合った環境を用意することも行ってきた。
	次年度方向性	子どもたちの遊びが発展するような「しかけ」を考え、提供していく。 子ども同士の関わりの中で、子ども自身で PDCA を考えられるようにサポートする。
3	計画・ねらい	持続可能な社会づくりの担い手を育てる
	実践結果	畑で植物や食物を育てることで、自然の移り変わりを学ぶことができ、自然や食べ物の大切さや命をいただくことの感謝の気持ちが芽生えた。
	次年度方向性	原体験や畑活動・どろんこ遊びを通し、日常的に生物の生死に直面し、命の存在を身近に感じ、本物の生きる力が育み、リアルな姿を地域の人に感じてもらい、自然保育や本質を共有し、持続可能な社会づくりに繋がっていく。
4	計画・ねらい	知・徳・体『生きる力』のバランスのとれた保育内容の充実
	実践結果	「運動遊び」「知育あそび」「原体験」「食育」「表現活動」等、園の特色を生かした様々な体験活動の充実により、友達と協力しながら自分で行動するように促した。
	次年度方向性	「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解・把握し、継続して実施する。

〈1〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	園での子どもの姿や成長の様子を共有していく
	実践結果	お迎え対応だけでは伝えきれない子どもの様子をタイムラインやドキュメンテーションなどを使って、子どもの様子を伝えてきた。しかし、全スタッフが、一人ひとりの子どもの様子を丁寧に伝える事に課題がある。
	次年度方向性	保護者との日々のコミュニケーションを強化するため、接遇に力を入れる。お迎え対応の現状をスタッフ間で共有し、園会議でロールプレイングを実施する。子どもの育ちや学びの過程や質を捉える力を高めていく。
2	計画・ねらい	保護者と連携して子どもの成長をサポートする
	実践結果	保護者の個人面談、保育参加ではご家庭では見られないお子様の様子をお伝えし、家庭で心配されている事に丁寧にお答えする事ができた。 しかしお迎え時の伝達、保護者のご要望に対するスタッフ間共有については課題となっており、次年度に向けて更なる改善を行っていく。

	次年度方向性	日々の保育者との関わりだけでなく、保護者の希望に応じて子育てについての悩みや相談を行い、ともに子どもの成長を共感・共有をし、一人ひとりの保護者にとっての安心感につながるようにしていく。

〈2〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開放的な園を目指す
	実践結果	「芸実学校」「自然食堂」「自然学校」「寺親屋」「青空保育」についてポスターの掲示や散歩時の保育者からの声掛けにより地域の方々にも共に活動を通してまめどくれっしゅを知っていただいた。
	次年度方向性	保育者が保護者や地域の方々にとってどんなことが安心につながるのか、より自園を知りたくなるのか模索する。
2	計画・ねらい	近隣施設との交流を深める
	実践結果	近隣の保育園や商店街、施設との交流を深めながら、いつでも気軽に立ち寄りやすい場所という印象を作った。
	次年度方向性	保育者が保護者や地域の方々にとってどんなことが安心につながるのか、よりまめどくれっしゅを知りたくなるのか模索する。
3	計画・ねらい	見学時や電話の問い合わせ時は丁寧な対応を行う
	実践結果	どのような時間に電話がかかってきても来園されても、丁寧に接し問い合わせいただいたことに感謝の気持ちを持ち対応を行った。
	次年度方向性	引き続き丁寧な対応を行うことで、園が温かく安心して利用できる場として地域に広めていく。

〈3〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園内研修、外部研修への参加をする
	実践結果	園内研修では、子どもの事例を基に園会議内でディスカッションを実施した。子どもへのかかわりを振り返るきっかけとなり、意識しながら保育をすすめるようになった。
	次年度方向性	記録や園内研修など、保育者が日常的に幼児を理解する仕組みをつくる。園内研修では、幼児理解を深めるため、立場を超えて「語り合う」場をつくっていく。
2	計画・ねらい	「報連相」の徹底したチーム保育づくり
	実践結果	「報告・連絡・相談」を徹底し、一人ひとりが考え、スタッフ同士で話し合う 機会を持ち、子どもや保育の話だけでなく、常にコミュニケーションを取ることを大切にしてきた。

	次年度方向性	コミュニケーションを基盤としたチーム作りのため、引き続き「報告・連絡・相談」を徹底し、縦の一本のラインだけでなく横・斜めに相互に作用しあい、チーム保育の柱を築いていく
3	計画・ねらい	保育者自身の人間力を育てる。
	実践結果	経験・年齢問わず各職種 が得意分野、専門分野にて各自の力を発揮し、互いに連携を図りながら共に語り合い、自らが発信し判断する力が強化されてきた。
	次年度方向性	状況変化に応じて、主体的に判断、行動する 自主・自立化の進んだ組織にしていくと共に、園全体のチームとしての底力も上げていく。

〈4〉環境実施目標

I	計画・ねらい	感染症拡大・怪我や事故を未然に防ぐ。
	実践結果	・室内、玩具消毒、換気、感染症対策の徹底 ・ヒヤリハットや事故記録簿の振り返り、傾向と対策・要因を園会議などで議題とし、話し合っていく。
	次年度方向性	園内に起こりうるすべての事象を自分事と捉えられるように園内研修、事故防止委員会などのファシリテートや計画を行い、すべての保育者がすべての子どもをみるという意識を高める。
2	計画・ねらい	大きな一つの家、全スタッフでの保育。
	実践結果	・園を一つの大きな家として、保育者全員で見守り、協力し合いながら、子どもの成長や興味にいち早く気づき、子どもが自信をもって他者と関わることができる環境を作ってきた。
	次年度方向性	他者の関りを基盤とし、異年齢児保育・インクルーシブ保育の実践。子どもも大人も園生活を楽しみ、子どもと一緒に様々な直接体験を通して、自分で考えて行動できるようにしていく。

〈5〉子どもの興味に寄り添った環境をデザインする

I	計画・ねらい	子どもの興味・関心、思い探ることを大切にしながら、環境を整える
	実践結果	子どもの実態把握のため、可視化、俯瞰し、さまざまな立場の人たちと対話をしながら、子どもたちの興味・関心、思いをより理解することができるようになっている。
	次年度方向性	引き続き、「環境を通して」子どもの様々な力が育まれるように、五感を刺激する環境、共同性が広がる環境・連続、継続してかかわることのできる環境を構成する。子どもの興味・関心をもとに環境構成をする上で、可視化するなどの工夫を行っていく。
2	計画・ねらい	保育者と子どもの相互に関連させながら環境構成を目指す

	実践結果	環境構成にあたっては、子どもの主体性を重視するあまりに、放置ともとれる状態に陥ること、また保育者の思いが強くなりすぎて、計画や思いが保育者主導になっていくことのないように、子どもの興味・関心と保育者の思いや援助を相互に関連させながら構成を行ってきた。
	次年度方向性	引き続き、常に子どもがその環境の中で満足しているか、充実した生活・遊びであるかを、園が目指す環境であるかどうかの指標とする。

〈6〉子どもが一人ひとりの安心感を支えるチームの構築

1	計画・ねらい	一人ひとりの安心感の醸成をする
	実践結果	子どもたちを集団としてとらえるだけではなく、子どもの一人ひとり受動を受け止める、丁寧に応答的なやりとりを行った。
	次年度方向性	子どもの安心できる環境づくりと子どもの特性を理解し、得意なことを意識した支援を行う。
2	計画・ねらい	子どもの理解、見る目を養う
	実践結果	主体的、自発的に遊ぶ子どもの姿をどのようにとらえるのか、保育者間の語り合いを大切に考えてきた。また、一歩踏み込んで、保育者同士がお互いの保育観を知り、子どもの姿を肯定的に捉える目を養っていくことが難しかった。
	次年度方向性	保育者自身が保育に対して、主体的に取り組んでいく姿勢を持ち、スタッフ同士の連携を視野に入れて、子どもに必要な体験に制限をしないことで、失敗から学び成功体験から自信を高める関りを持っていく。
3	計画・ねらい	チームで協力体制を築く
	実践結果	個々の個別計画をどのように実践するのか、ねらいや価値をスタッフ全体で共有し、チームで協力して子どもの発達や興味・関心に合わせて柔軟に取り組んできた。
	次年度方向性	施設長からの園の基本方針に基づいて、定期的にリーダー会を開き、主任・ミドルリーダーとしてできる園運営についての課題を考え、実行していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：	4人	1人	0人	6人	7人	23人	41人

4~9月							
年度後半：10~3月	6人	11人	0人	6人	12人	18人	53人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	38人	50人	59人	61人	56人	47人	52人	47人	64人	60人	60人	60人	654人
うち0歳児	0人	0人	4人	3人	4人	2人	4人	4人	2人	3人	3人	3人	32人

（解説）新型コロナウイルスが5類に移行後、在宅勤務が減り出社勤務が増えたことで、延長の利用が増加した。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）配置基準に基づいた保育士配置基準による人員確保により、今年度は休止とした。

〈2〉開所時間

７時００分～２０時００分

〈3〉スタッフ構成　（３月１日時点）

常勤スタッフ	保育士	10人	補助	1人	調理員	2人		
パートスタッフ	保育士	2人	補助	1人	調理	1人	事務	0人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	アレルギー確認、クラス給食状況、食育会議報告
事故防止委員会	月1回	危機管理、安全対策、前月の検証
ケース会議	月1回	保育計画の振り返り、立案、共有、他機関との連携報告
リーダー会議	月1回	園全体の運営、人材育成計画立案・共有
昼礼	週1回	事務連絡、子どもの様子の共有、事故・怪我の共有
フロア会議	週1回	フロアごとの保育計画の振り返り・立案、子どもの様子の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 （5.7.11.2月/5.8.11.2月）	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 （5.7.11.2月/5.8.11.2月）	施設長
主任会議／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子ども及び保育者の保健保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理を行い、子どもも保育者も健康保持につながるた

	めの意識を高めた。
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理・点検、事故記録の作成、避難訓練計画の立案・実施し、事故や怪我につながる要因の分析と検討を行い、防止に努めた。
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保・点検し、自園の特性を踏まえた計画と実践を意識することで、より具体的な反省点も見えた。
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応をし、より食の安全性を追求した。
畑係	年間を通した畑・食育計画の立案・実施、畑の管理をし、子どもも保育者も作物の生育や食のつながりを認識した。
生き物係	命の尊さや自然現象への関心を高める環境を整え、鶏などの生き物の世話を通して、子どもも保育者も命あるものへのいたわりや大切にする気持ちを育み、食物連鎖につながることを認識した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画立案をし、大豆戸どろんこ保育園と合同で開催した。夏ならでは内容や模擬店の出店は、園児や地域の方に好評であった。
運動会・生活発表会係	行事の企画・立案し開催する。どちらも小学校の施設を借りて行った。子どもの成長を通して個々の様子を始めとし、全園児の発表を見ることで、年齢ごとの成長や異年齢の関りを知ってもらう良い機会となった。
子育て支援担当	子育て支援事業の企画立案、実施とした。ちきんえっぐの活動地域支援事業としてのイベント、園見学や園庭開放などを通して自園について知ってもらう機会となった。

4. 保育支援

〈1〉保育･保育参加･保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・子どもたちの園生活が落ち着いた下半期から参加を希望する保護者が多かった。園での子どもの様子を見ていただくことで、園での取り組みを理解していただき、子育ての関心を高めてもらうことができた。 ・手洗いは、感染症予防として大切だと考えているので、引き続き園でも指導と子どもへの意識の徹底をお願いしたいという意見があった。 ・日々の給食の様子や献立の実食から、家庭での味付けの意識が変わったという声が聞かれた。
保育参加	4～3月まで　合計　13名　が参加済み　　（3月１日時点）
保護者面談および発達相談	4～3月まで　合計　５名　が参加済み　　（3月1日時点）
運営委員会	運営委員会を6月・11月に自園にて実施し、参加した保護者　各回３名 詳細は議事録に記載

〈2〉計画した年間行事の振返り

・別紙「２０２３年度年間スケジュール」に掲載
・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	噛む力を養い、素材を味わう
	実践結果	乳児期に欠かせない栄養バランスに配慮し、噛む力を育てられるように食材の大きさを調節、素材を味わい、季節感を感じられる献立を提供した。
	次年度方向性	保護者にも噛むことの大切さを伝え、一人ひとりが十分にねらいを達成できるように援助する。
2	計画・ねらい	食育活動を行う
	実践結果	自分たちで選び、畑で野菜を栽培することで、成長の変化や旬の食材に気づき、食に興味を持てるようになった。クッキングでは、自分たちが育てた野菜を使い、素材が様々な食べ物に変化する姿を見ることで、食に興味を持てるようになっている。
	次年度方向性	日々の畑仕事を日課とした上で、子どもと共に命を育てて命をいただく大切さを知り、作物の変化に気づき関わっていく。
3	計画・ねらい	バイキングや食事のマナーを知る

	実践結果	自分が食べられる量や時間を知り、自分たちで決めていくことができるようになってきている。しかし、挨拶や食事のマナー、食具の正しい使い方については、課題が残る。大人が見本となって、繰り返し丁寧に伝えていく
	次年度方向性	日々の食事に関することを意識した上で、子どもと共に食事環境の大切さを知り、食事に関することで子どもの変化を見ていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月7日／12月6日に園にて実施
歯科検診	6月14日/11月7日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①　4月１９日に園にて手洗い、うがい指導を実施 ②　5月19日に園にて「手洗いの大切さ」を実施 ③　6月15日園にて歯磨き指導(幼児)を実施 ④　1月 10日「歯磨きについて知ろう(乳児)」実施
流行した感染症	①　６月に新型コロナウイルス、子ども2名、スタッフ4名感染報告 ②　4月にウイルス性胃腸炎　園児８名感染報告有り。 5月6日に終息。
発作・痙攣等の対応	計１名に対し、計1回ダイアップ使用 その他、熱性けいれんが起き、5分経過のため、9月15日、2月2日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・３月21日に園にてエピペン研修を保育スタッフ15名、調理スタッフ2名、計17名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、17名が使用可能
その他保健に関する取組	嘔吐処理物品の管理、嘔吐処理方法のスタッフ指導、救急用品の管理、新型コロナウイルス及び、他感染症予防のための、手洗い・うがい指導、消毒、換気の徹底。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み

	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6･12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6･12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月･11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4･7･10･1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4･7･10･1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日　0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日　0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4･10月 ⇒4月10日、10月10日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日　実施済み
	児童健康診断	内科健診　各年2回／6月7日／12月6日に実施 歯科健診　各年2回／6月14日/11月7日に実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4･10月の園会議時 ⇒4月11日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間　実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの「やりたい」を尊重し、発達や興味・関心に合わせた環境を作ると共に、安心して過ごせる環境作り。
	実践結果	園会議内などで子ども達の様子を共有し、子どもが自分で考え、他者と関わりながら自分で行動できる保育環境を作ると共に、定期的に見直しも行った。
	次年度方向性	子どもの発達や興味関心、安心して過ごせる戸外・室内環境を考える。
2	計画・ねらい	整理整頓を常に心がけ、必要な物だけを置く気持ちの良い環境の下、子どもが活動しやすい動線を作る。

	実践結果	掃除チェック表を作成し、何を行えばよいか、終わっていないところはどこかが、だれが見ても分かりやすく取り組みやすいようにし、子どもが過ごしやすい動線作りと園全体の清掃に努め、園内の美化が保たれた。
	次年度方向性	ただ綺麗にしておくのでなく、子どもにとっての使い勝手や、想像力が刺激される環境はどういったものかを考えた構成にしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
I	吊りブランコ	園庭	毎日	異常なし
2	泥場	園庭	毎日	異常なし
3	物置小屋	園庭	毎日	5/9に破損などが見られ解体・撤去
4	製作台・机	幼児室	毎日	6/27に破損が見られ解体・撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月I5日に行う。 危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う。 年2回通報訓練と保護者と連携した児童引き取り訓練を行い、非常時はアプリを使用し、園が情報を発信安否・施設状況・連絡先の情報共有体制をとった。
2	実践結果	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。 事故防止委員会を毎月I回行い、ケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有する。また同グループ内でも共有し、事故防止策を探った。 園内外のハザードの見直しを定期的に行い、ハザードマップの作成・共有を行った。
3	実践結果	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時には対応フローチャートに従い、年2回不審者侵入訓練を実施した。
4	実践結果	光化学スモッグが発生やすい状況を把握し、発令があった場合は速やかに対応し、室内で過ごし健康状態の確認を行った。
5	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告書を活用し、事故防止委員会で検証を十分に行うことで事故を未然に防いだ。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度は、受け入れはなし

〈2〉実習生の受入

今年度受け入れなし

〈3〉中高生の受入

今年度受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	11日 16名	16日 16名	13日 17名	11日 名17	25日 17名	29日 18名	27日 18名	24日 18名	22日 18名	26日 18名	26日 18名	22日 18名
保育の質研修	18日 16名	16日 16名	20日 17名	18日 17名	22日 17名	19日 18名	17日 18名	21日 18名	19日 18名	23日 17名	20日 17名	19日 17名

〈2〉外部研修への出席

今年度は、外部研修参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。また、保育者の特性に応じて個別に業務の振り返りを多くとり、複数人での臨時会議の機会を提供することで、チーム意識の確立とお互いの長所・短所を踏まえたチームの補い方を経験から学び、保育の質を上げることへ繋がった。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の子育て拠点として、区役所や近隣保育園や近隣小学校などとも協力し、交流の機会を計画し、近隣の保育園との5歳児交流として、交流の場を持った。

すれ違う地域の方に積極的に挨拶をし、園見学で園に訪問された際には、園についてより丁寧にお伝えした。

活動を広めるために、園の入り口や近隣の公的施設や店舗などに掲示させていただき、周知に努めた。今後の活動内容の見直しをしながら、園の魅力を伝えられるようにしていきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回　公園名：大曽根第二公園にて
商店街ツアー	週1回　主な行き先：港北区役所、港北消防署、港北警察署、永昌寺、小泉麹屋、マルエツ、おかしのまちおか、大倉山駅、横浜銀行、soraco 大倉山、横浜交通局、青柳、そば香、師岡熊野神社、港北図書館、等
世代間交流	2月14日にニューバード獅子ヶ谷にて　交流会を実施
異年齢交流	1月30日に太尾小学校にて幼小交流会を実施
その他活動	11月8日にニューバード獅子ヶ谷の畑にて地域の方と芋掘りを実施
銭湯でお風呂の日	月1回　〈3～5歳児〉　実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

横浜市スタートカリキュラムに基づき、自園独自のアプローチカリキュラムを作成し、年間を通して計画的に幼小保連携を進めた。また、幼小保連携会議・授業研究会に積極的に参加し、地域の実態を把握しながら、教員と共に小学校指導要領について、これからの未来のために幼児期の子どもにとって、必要な経験は何かを具体的に学び、就学時には、横浜市保育所保育要録を送付し、必要に応じて一人ひとりの子ど

もの情報の申し送りなどを丁寧に実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月15日	師岡小学校 菊名小学校 校長	1名	横浜市港北区幼・保・小教育交流事業「園長・校長会」	職員間交流
10月14日	菊名小学校	1名	菊名小学校	運動会見学
12月13日	大曽根小学校	11名	自園	児童情報共有
1月18日	菊名小学校	2名	自園	児童情報共有
1月30日	太尾小学校 1年	11名	太尾小学校　1年生教室	子ども間交流
2月5日	師岡小学校	1名	自園	児童情報共有
2月14日	獅子ヶ谷小学校	1名	自園	児童情報共有

10.　要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの状況などを観察し、学年会議で振り返りと保育者間の共有を行い、見直した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・４～３月に計12回開催　参加者：6名

毎月1回、担当者を中心に子どもの変化や興味などを話し合い、共有した。また、次の発達段階を見越して計画を立て、保育者間で共有し配慮した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引継ぎは、横浜市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについて申し送りによって行った。

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	2名	2名	4名	18名	0名	0名	18名	0名	0名	名0	2名	46名

実施項目	詳細												
園開放	（月）～（金）9:30～16:30　にて実施												
子育て相談	（月）～（金）13:00～16:30　⇒計 1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計5回実施済み 参加者延べ人数 10名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	2名	2名	2名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	10名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00　　⇒計6回実施済み 参加者延べ人数 6名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	6名
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00　にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっぐだより	毎月1日発行												
青空保育 （支援センター主催）	月1回　　公園名：大曽根第二公園にて　以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

11.　園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

２023年12月22日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時00分
自己評価終了時刻：17時00分
自己評価実施者：寺井奈穂美、坂井直子、宮本美友紀

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：８月２５日

アンケート回収率：100%

12.　苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（ＨＰ・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見　　０件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）０件

※なお、報告書内の３月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：２０２４年3月１５日　　作成者：まめどくれっしゅ施設長　寺井 奈穂美